

「中学生の自分たちでも力になれる」

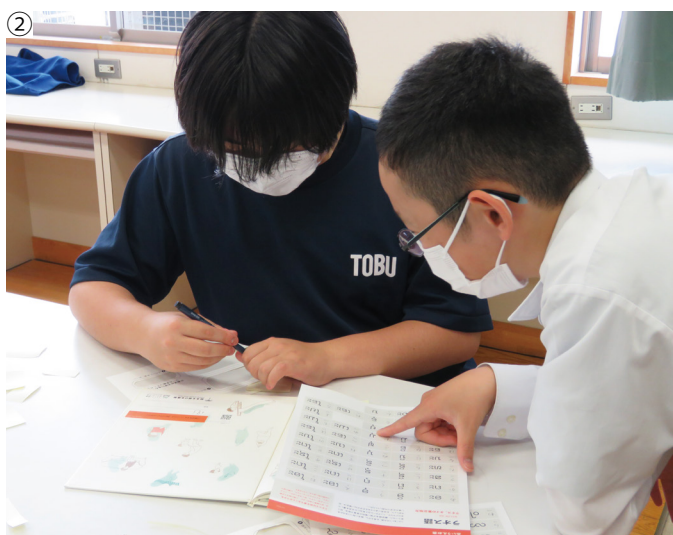
長野・東御市立東部中が「絵本を届ける運動」に初参加



長野県東御市の市立東部中学校（盛野憲俊校長、生徒 694 人）が 6 月 13 日、「絵本を届ける運動」に初めて参加しました。

アジアの子どもたちに絵本を贈る、シャンティ国際ボランティア会の活動です。日本語の絵本に、現地語の翻訳シールを貼って完成させます。この日作業した絵本の届け先はミャンマー（ビルマ）難民キャンプ、ラオス、カンボジアでした。ベルマーク財団は 2000 年からこの運動を支援しています。

参加したのは福祉委員会の生徒約 50 人。普段はベルマーク活動を担い、毎日、



学年を超えた縦割り班で当番活動として、マークの仕分け・集計をしています。

今回、参加するきっかけをつくったのは、顧問の深町さや香先生。初めは募金活動を考えていた生徒たちですが、お金を集めることには多くの制約がありました。生徒だけでできる活動を深町先生も一緒になって探したところ、見つけたのがこの運動でした。

準備を進めてきたのは委員長の田中航介（3 年）さんと副委員長の小林結菜さん（3 年）です。小林さんはこの運動を知ったとき、「自分たちでも力になれる活

動があると分かり、嬉しかった」といいます。ふたりとも、シャンティから届いたしおりを事前に読んで予習してきました。

作業は、シールの黒い枠線が残らないよう 2mm ほど内側を切ることや、上下を間違えないこと、本に折り目を付けないことなど、ポイントがあります。特に盛り上がったのは、シールを貼り終わった本に、サインをすること。現地語のあいうえお表と照らし合わせ、自分の名前を書きます。見たことのない言語に驚き、「俺の名前、めっちゃ難しいじゃん」と声をあげる生徒もいました。



① 作業中の副委員長・小林結菜さん(左)と委員長・田中航介さん ② 友達と協力しながら、自分の名前をサイン ③ シールを貼る前の位置確認も大切 ④「TDGs」のポスター。「残食を少なく」「生活のリズムをつくる」などの文言が盛り込まれている

作業開始 50 分後、25 冊全てが完成しました。生徒からは「たった 50 分間の作業だったけれど、それで他の国の困っている子どもたちの役に立てると思うと嬉しい」と感想があり、参加してよかったと感じてもらえたようです。

◇

同校では、持続可能な社会の実現に貢献しようと、SDGs の 17 の目標をアレンジした「TDGs」を掲げています。TOBU junior high school Development Goals の略です。ポスターを掲示し、生徒全員の意識を高めています。

友愛援助、トルコ・シリアの子どもたちに届く

ユニセフがオンライン報告会を実施

今年 3 月から 4 月にかけて財団が募集した「トルコ・シリア大地震」への緊急友愛援助の寄付先、ユニセフ（UNICEF：国連児童基金）が 6 月 7 日（日本時間）にオンライン報告会を開きました。ベルマーク財団は、参加団体から集まった友愛援助寄付金と、財団の援助資金を合わせた 108 万円を 5 月に寄付しています。

報告会は、トルコ南東部の被災地と各地のユニセフ事務所をつないで、全世界の支援者に向けて発信。被害状況や集まった寄付金の活用方法などの説明がありました。

今年 2 月に発生し、マグニチュード 7.7 と 7.6 を観測した「トルコ・シリア大地震」。2 回の揺れが、トルコ南東部とシリア北西部に被害をもたらし、トルコでは 5 万人以上が亡くなりました。同国内では、さらに約 1500 万人が被災、うち約 540 万人が 18 歳以下の子どもです。

一方、シリアでは少なくとも 6000 人が亡くなりました。

ユニセフは地震の発生直後から、他の支援団体とも協力しながら、活動を進めてきました。支援は、厳しい冬の寒さをしのぐためのブランケットや服、きれいな水、特殊な医療機器、ワクチンなど、物資の提供から始まり、家族と離ればなれになった子どもたちへのカウンセリングも実施。トルコではこれまでに 33 万人以上の子どもたちが学習の場に戻りました。

友愛援助で集まった寄付金について、日本ユニセフ協会 学校事業部の鈴木有紀子さんは「あたたかいご支援を寄せてくださった皆様に心から御礼申し上げます。身近なベルマークが大地震で被災した子どもたちへの支援につながったことを、ぜひ多くの皆さんに知っていただければと願っています」とコメントを寄せてくれました。



©UNICEF/UN0795154/English 難民キャンプで、ユニセフの衛生用品を受け取り、テントまで運ぶ子どもたち（シリア、2023 年 3 月 1 日撮影）

選手もベルマーク収集に協力

スナッグゴルフ全国大会に回収ブース

一般社団法人日本ゴルフツアー機構（以下 JGTO）が、福島県・西郷村で開催されたスナッグゴルフ対抗戦 JGTO カップ全国大会で、出場選手から集めたベルマークを財団に寄贈しました。JGTO 貢献事業部長の宮内勝さんと山田寛さんが 7 月 27 日、財団を訪れ、マークを届けてくれました。

全国大会でのベルマークの収集は、2021 年に三木市で実施された西日本大会から始まり、今回で 4 回目です。事前にベルマーク運動の意義や仕組みなどを説明した冊子を配布し、大会当日にベルマークを 10 点分持参した選手に、記

念品がプレゼントされました。「早めに告知して、受付にベルマークブースを作り、回収箱を置いて集めました」と宮内さん。ベルマーク財団の山崎靖常務理事は、「スナッグゴルフとベルマーク、お互いに周知、活動を拡げるために、これからもよろしくお願いします」とお礼を伝えました。

◇

スナッグゴルフは、子どもから大人まで、楽しくゴルフの基本を学べるように開発されました。プラスチック製の 2 種類のクラブで、ショットの時にランチパッドというゴム製のマットを使いま



す。ボールはテニスボールのような素材で、ゴルフとは違い、ホールではなく、スナッグフラッグにくっつく（snag）ことでホールアウトとなります。

大台達成校

7 月

谷口台小	相模原市南区	7,006,410
加茂小	兵庫県川西市	5,010,016
永野小	横浜市港南区	4,028,885
岩神小	前橋市	3,006,403
下小田中小	川崎市中原区	3,000,748
岩戸小	神奈川県横須賀市	3,041,956
東田辺小	大阪市東住吉区	3,024,842
旭東小	千葉県柏市	2,028,759
江井島小	兵庫県明石市	1,004,550

楽しい夏休みを
過ごしてね

